



# みどりの風

平成29年1月10日発行  
校報 第537号  
〔みどりの風 第80号〕  
練馬区立関町北小学校

## 新しい年を迎えて

校長 大野 泰弘

平成29年が始まりました。東京地方の今年のお正月三が日は、観測史上初めて最高気温が13度以上になったということで、穏やかな1年のスタートになりました。

保護者・地域の皆様には、お健やかによき新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年が、皆様にとりまして、ますます幸多き一年となりますことを祈念申し上げます。

さて、今日から、学校には子どもたちの元気で明るい笑顔が戻ってまいりました。新たな三学期制としての一年も、残すところ3ヶ月ほどになりました。引き続き、子どもたちが安心して、笑顔や喜びに満ちた学校生活を過ごすことができますよう、教職員一同、心を引き締めて、一所懸命努力してまいります。

ところで、私は「心を開き、夢を育てる」という基本的な考えをもとにお子様を、そして学校をお預かりしておりますが、昨年1月号では、「申」年にちなみ、「しん」の付く言葉を念頭に置いて1年間の教育活動を展開するとお伝えいたしました。練馬区で実施される「新」たな三学期制に伴う「新」規事業、学習指導要領の改訂を見据えた21世紀型能力の育成に資する教育の推「進」、子どもたちの「心」に寄り添い、その多様な個性や能力の「伸」長と「真」なる道の探究、家庭・地域社会と学校との揺るぎない「信」頼関係のもとに、子どもたちの夢や希望を育む、こんなことを掲げて1年間学校をお預かりいたしました。

それに対する皆様のお声は、昨年12月の「関町北小学校の教育に関するアンケート」の中に示されておりました。ご多用の中、多くの貴重なご意見をお寄せくださり、有難うございました。皆様からのご意見は、私にとりましては大切な宝物です。2月以降、皆様からいただいたご意見やご要望などに対する学校としての考えをご報告させていただこうと思っております。

そこで、「酉年」の始まりですので、例によって、今年の学校教育を進めていくうえで、私が心に留めておきたいことを以下のようにまとめてみました。具体的には、「改」という文字をヒントにして考えました。

まもなく発表されるであろう、次期小学校学習指導要領の「改」訂に向けて、学校内でしっかりと研修を深め、柔軟に対応できるようにしていきたいと考えています。これまでの「何を知っているか」という知識の量を中心とする教育ではなく、「何ができるようになるか」、「どのように学ぶか」といった学び方についても「改」善を進めていきたいと考えています。

改訂される小学校学習指導要領にはいくつかの視点が示されていますが、一つに「アクティブ・ラーニング」、二つに「カリキュラム・マネジメント」があります。変化が激しく、予測が難しいと言われるこれからの時代や社会を生きていく子どもたちに求められる「21世紀型能力」としての「基礎力・思考力・実践力」等が確実に育まれるように、改訂の趣旨を生かした授業「改」善にも計画的に努めてまいります。

オリンピック・パラリンピック教育の推進、特別支援教室の開設、小中一貫教育の充実等、東京都や練馬区の施策もいろいろと示されておりますが、これらを学校教育の充実に向けた「改」革の機会と捉え、多くの方々のお力をお借りしながら、子どもたちに夢や希望を伝えていきたいと思っております。

すでにお知らせしていますが、本校の東校舎が仮設建築物であるということで、まだ時期などは決まっていますが、将来的には「改」修される運びになると思われれます。子どもたちの学習環境が、これまでのように良好に継続されていくように、練馬区の担当の方々とは話し合っていきたいと考えています。

このほかにも様々な教育課題がありますが、この一年も教育目標の「共に生きる」という精神のもと、教職員一人一人も年初にあたり心を「改」め、本校に通う全ての子どもたちにとって、よりよい教育実践を積み重ね、魅力・信頼・活力にあふれた関町北小学校を築いてまいりたいと存じます。旧年にもまして、皆様のご理解、ご支援、ご協力のほどをお願い申し上げます。